宮城県中学校長会

会　報

2019年度前期の活動を振り返って

宮城県中学校長会
会　長　**鈴　木　一　史**

今年度も酷暑や自然災害などにより様々な対応を迫られ，苦慮する日々も多かったように思います。しかし，どんな状況でも生徒の笑顔を見ることによって私たちが救われることも多かったのではないでしょうか。県内の各中学校においては，春から生徒と共に蒔いてきた多くの種が，さまざまな場面で確かな成長の実りとなって表れてきていることだろうと思います。年度末までに一人ひとりの生徒にしっかりとした目標を持たせながら，なお一層未来に向かって確かな歩みを進めさせたいものです。

宮城県中学校長会のこれまでの活動を振り返れば，５月末の総会で確認した「学校からの教育改革」という決意のもと，会員の叡智を結集しながら諸課題への対応を進めてまいりました。県教育委員会との協議もすすめ，これから大きな課題となっていくＳＣやＳＳＷの活用については，「宮城県小･中学校教育の充実発展についての懇談会」において忌憚のない意見交換を行うとともに，よりよい方向性を導けるよう歩みを進めております。各部の調査活動等もまとまりつつありますが，情報と認識を共有しながらそれぞれの取組に反映していきたいと考えております。

研究協議会の動きに目を転じますと，６月には第69回東北地区中学校長会研究協議会が秋田市を会場に開催されました。「新たな時代を切り開き，よりよい社会を作り出していく日本人を育てる中学校教育」という大会主題の下，３分科会から６つの先行的な実践事例の発表があり，第３分科会においては仙台市の校長先生に研究発表を行っていただきました。全日中報告や記念講演も含めて，多くの学びと意見の交流が図られた２日間となりました。

やっと秋の気配が感じられた10月，第37回宮城県中学校長会研究協議会本吉大会が気仙沼市本吉の「はまなすの館」を会場にして開催されました。研究協議においては，「次代の学校経営を担う人材の育成」－人事評価等各種施策の活用を通して－と題して仙台地区から，そして「確かな学力の育成を目指す学校経営」－「学力向上に向けた５つの提言」の実践の充実を通して－と題して北部地区からの発表がありました。今年度から２つの研究発表を全体会で協議するスタイルで熱心にご協議いただきました。主管していただいた本吉地区校長会の適切な計画と真心あふれる運営に改めて感謝を申し上げます。

10月末に開催された第70回全日本中学校研究協議会群馬大会には，本県から28名の校長先生方が参加しました。今年度の全国大会は宮城県としての発表はありませんでしたが，８つの分科会に分かれて参加して今後の学校経営の参考にすることができました。

さて，今年の夏，全日中の被災地訪問の際，気仙沼市を訪問させていただきました。三陸道の全線開通に向けて，開通した部分が多くなり，仙台などとのアクセスがかなり便利になり復興が進んでいることを実感いたしました。一方，その際今年開館した「気仙沼市東日本大震災遺構･伝承館」も見学させていただきました。８年が経過しましたが，展示物や映像を見て，そのときのことを思い出し，絶対風化させてはいけないと強く思いました。そして，いじめ，不登校，学力向上，学校における働き方改革の取組等これらは喫緊の課題であり，同時に中・長期的な視点で取り組み続けなければならない持続的な課題でもあると考えています。

学校が抱える課題を見据えながら，会員の叡智を結集し，次年度計画についても十分練りながら進めていきたいと考えておりますので，今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

第70回 全日本中学校長会研究協議会 群馬（前橋）大会

研究主題：「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」

ベイシア文化ホール他　　令和元年10月23日(水)～25日(金)

記録：美里町立小牛田中学校長　佐々木　雄　二

第70回全日本中学校長会研究協議会群馬（前橋）大会が10月23日～25日の３日間，ベイシア文化ホールを中心に前橋市内の各会場で開催されました。大会には全国から1818名の会員が参加し，「新たな時代を切り拓く人づくり　東国文化発祥の地　群馬から」を大会スローガンに，熱心な研究討議となりました。

第１日　10月23日（水）

全日中常任理事会，全日中理事会　他

第２日　10月24日（木）

【開会式】

川越豊彦大会会長が，「技術革新が目覚ましく進展･普及することにより，子供たちが大人になって活躍する社会は，大きく変化し予測困難な時代になってくる。そうした変化の激しい社会にあっても，子供たちが変化からチャンスを見つけ，活用し，活動していくような資質・能力を身に付けさせる教育が期待されている。」

また，「子供たちに必要とされている資質・能力を身に付けさせることができるように，教師にも変化し続ける社会に的確に対応できるよう必要な資質・能力を着実に身に付けることが求められている。」と研究協議会主題の意義付けと活発な研究協議への願いを込め挨拶をしました。

続いて，綿貫知明実行委員長が，群馬出身のキリスト教思想家で教育者の内村鑑三氏の著書「代表的な日本人」を引き合いに出し，「真の人間」になるために学校教育はあります。新たな時代を切り拓き，よりよい社会を創り出していくのが，「真の人間」であるならば，本研究協議主題は大きな役割を担っています。私たちは，こういう学校にしたいという理想を持ち，子供たちが自分の心を正しく導き，人生をより良く変えてほしいと願い学校経営を行っています。参加された校長先生をはじめ，それぞれの教育現場で，本大会の成果と全日中教育ビジョンを活用し，適正にビジョンを策定し学校経営されることを願います，と挨拶をしました。

祝辞は，文部科学大臣，群馬県知事，前橋市長の３名からありました。

【文部科学省説明】

文部科学省大臣官房審議官矢野和彦氏から，①新しい時代の初等中等教育の在り方，②教師の資質能力の向上，③学校における働き方改革の推進，④教育の情報化の推進等を中心に，説明がありました。

【全体協議会】

〈第１研究協議題（全日中提案）〉

全日中生徒指導部長笛木啓介氏から全日中教育

ビジョンに基づく学校からの改革「いじめ問題による自殺根絶に向けての提言（調査研究報告書を通して）」として，７つの提言がなされました。

〈第２研究協議題（地区提案）〉

島根県出雲市立第二中学校の伊藤成二氏から「明日も行きたい」と思える学校を目ざして～『自分株』を磨き『学校株』を高める活動を通して～として，生徒指導を中心とした「チーム学校」づくりの４つの提案がなされました。

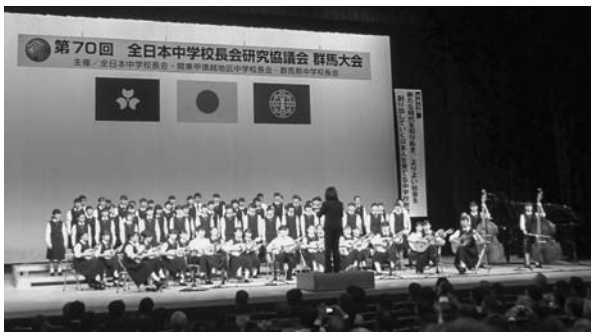
【分科会】

８つの分科会に分かれて，発表，研究討議が行われました。

第３日　10月25日（金）

【アトラクション】

伊勢崎市立第三中学校ギター・マンドリン部，合唱団の心にしみる素晴らしい演奏が披露されました。



【全体会】

大会実行委員長より「大会宣言（案）・決議（案）」が提案され，承認されました。

【記念講演】

作家「横山　秀夫」氏が「自己点検のススメ」と題して講演を行いました。横山氏は，自分のプロフィール（東京都生まれ，大学卒業後，群馬県の上毛新聞社で，12年間新聞記者として勤務した。1998年「陰の季節」で第5回松本清張賞を受賞し，小説家デビューを果たした。執筆した作品は，テレビドラマや映画にもなっている。）を紹介しながら自分の経験してきたことを「組織」という視点から持論を展開しました。組織の論理にどっぷりつかってしまうと，いかに自分自身が見えなくなってしまうか。自身の価値観を常に自分の常識と世間の常識を比較分析して，多角的な視点で自己欲求や思考抑止につなげ，現在の置かれている立場を考えることがいかに大切であるか，切々と語りかけていました。

【閉会式】

大会会長と大会実行委員長の御礼の挨拶に続き，次期開催地である和歌山県の楠見健会長から，自作のビデオ上映で和歌山県の歴史や観光スポット，特産物等の説明を受けました。最後に和歌山県のキャラクター「きいちゃん」と校長先生方が来年度の参加をアピールし，３日間の大会が終了しました。

第１分科会に参加して

「カリキュラム･マネジメントの推進」

記録：角田市立角田中学校長　**工藤　成瑞**

1　テーマ及び提案の趣旨

⑴　コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の推進を通して，社会に開かれた教育課程の編成・実施の取組　（群馬県）

⑵　支援教育の視点を取り入れ，人とのふれあいを大切にする横断的な教育課程の編成・実施の取組　（神奈川県）

2　実践の概要

⑴　群馬県藤岡市立小野中学校の実践

①学習スタンダード及び学習系統表の活用
②小中乗り入れ授業と合同研修会の実施
③教育課程の見える化とアクションプラン
④家庭・地域への情報発信

⑵　神奈川県相模原市立新町中学校の実践

①支援教育の視点を持った授業改善
②支援教育の視点においての具体的配慮
③ＩＣＴ機器を活用した授業改善
④学校・家庭・地域が一体の教育活動

3　研究協議

・　コミュニティ・スクールを推進する場合，学校運営協議会にミドルリーダーとなる教員を参加させることで職員全体の意識を高めることができ，効果的である。

・　支援教育の視点に立った教育課程の実施により，不登校生徒の減少や生徒間トラブルの減少につながっている点が参考になる。

4　全日中からの指導助言

・　９年間の学びのつながりを小中連携して実践している。アクションプランの作成に，生徒，保護者，地域の意見を取り入れる仕組み作りが参考になる。当事者意識を高め連携・協働の気運を高めたい。

・　支援教育の視点は重要であり，授業づくりの５つの工夫と７つの視点が全教員に浸透している。校長が家庭や地域とのパイプ役となって進めている点も，これからの学校経営に生かされる。

第２分科会に参加して

「主体的・対話的で深い学びの実現」

記録：七ヶ浜町立七ヶ浜中学校長　**佐藤　剛**

1　テーマ及び提案の趣旨

⑴「協同的な関わりを通して主体的に学び，自己の力を伸ばそうとする生徒の育成」と題した研究。平成20年度から協同学習を軸にしてきた実践を発表した。
（鳥取県・伯耆町）

⑵「主体的に問い続ける学習者の育成」
～論理的思考を基盤とした課題発見・解決学習の推進～　と題した研究。３つの視点を中心とした実践発表であった。
（広島県・福山市）

2　実践の概要

⑴　鳥取県・伯耆町立溝口中学校の実践

「教師の授業力向上」「生徒が協同する授業」「授業とつながる家庭学習」の３つの視点について，自校独自の取組を徹底するとともに，近隣中学校との合同授業研究会，小中合同研究会，先進校視察などから学び，協同学習を通して研究テーマに迫る実践をしている。

⑵　広島県・福山市立鷹取中学校の実践

年間指導計画改善（H28年度より市内でカリキュラムマップ作成，学びの地図作成配付等），授業改善（課題発見・解決学習の推進，ICT 機器活用等），総合的な学習の時間改善（SDGs との関連，ふるさと学習の位置付け）により，主体的に問い続ける生徒を育成している。

3　全日中からの指導助言

鳥取県の発表は，「主体的・対話的で深い学び」に向かう条件が整っており，校長主導の協同的な経営が実現できている。この文化を継続させてほしい。広島県の発表は，生徒の変容も評価できるが，何より，若手教師が着実に指導力を身に付け，それがベテラン教師を刺激するなど，若手とベテラン間の好循環を生み出していることを評価したい。２つの実践発表は学校経営をするうえで大変示唆に富んだものである。

第３分科会に参加して

「よりよく生きようとする意志や能力を育む道徳教育の充実」

記録：大崎市立岩出山中学校長　**久光　新一**

1　テーマ及び提案の趣旨

⑴　ものごとを多面的・多角的に考え，生き方についての考えを深める道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度の育成　（北海道）

⑵　他の教育活動・働き方改革との関連を重視した道徳教育の充実　（北海道）

2　実践の概要・内容

⑴　北海道（富良野市校長会）の実践

①「ＺＥＲＯ運動」の取組

② 道徳教育推進教師・教務担当者研修会

③ 授業力向上に関する６校の実践研修

④ 小中学校における授業交流

⑵　北海道（宗谷校長会）の実践

① 教育課程の整備と道徳科の位置付け

② 道徳科の必要性についての学習

③ 指導過程，指導体制の確立

④ 道徳科の評価の在り方

3　全日中からの指導助言

⑴　北海道（富良野市校長会）の実践

「ＺＥＲＯ運動」を教育の根幹に位置付け，校長会のリーダーシップの下，市全体で取り組むことにより，大きな教育的な成果をあげることができた事例である。教師の確かな授業実践が生徒の変容につながった。

⑵　北海道（宗谷校長会）の実践

次世代を担う若い教員の育成をめざした取組により，教員の意識の高まりが見られ，各校で一定レベルの道徳科の授業が展開されるようになった。研究推進前と推進後の実態調査の結果から大きな成果がうかがえる。

第４分科会に参加して

「健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実」

記録：気仙沼市立津谷中学校長　**今野　勝美**

1　テーマ及び提案の趣旨

⑴　「かけがえのないいのち」を守り切る，安心・安全な学校づくりを目指して　（京都府）

⑵　小中連携による体力向上の取組（兵庫県）

2　実践の概要

⑴　京都府京都市立高野中学校区での実践

①「からだのいのち」の視点から，小中９年間での取組として，自助・共助の態度を育成するために緊急地震速報を用いた避難訓練の実施，交通安全教室の実施。また，安全を守る知識・技能を高めるために，校区内の３校合同で，安全実施研修会，避難所設営研修会，不審者対応研修会を実施。

②「つながりのいのち」の視点から，授業づくり，学級経営，教室環境におけるユニバーサルデザイン化を実施。

⑵　兵庫県立尼崎市立武庫東中学校での実践

①　学校行事による連携として，体育大会，生徒会による小学校でのあいさつ運動，小学生が中学校に来て授業を受けるウェルカム授業などを実施。

②　教科における小中連携として，英語科による小中の授業参観や指導法についてなどの意見交換。体育の授業における中１ギャップ軽減に向け，集団行動，ラジオ体操，トレーニングの情報共有。

3　全日中からの指導助言

京都府の発表は，危機管理の４つのポイントをしっかりおさえており，各学校とも形は違うが共通しているところがあった。また，１つの考え方が総合型的で体系的に広がっている。

兵庫県の発表は，学習指導要領にも示されている「豊かなスポーツライフ」をテーマとして取り上げており，グループ活動の中で行う，支える，見る，知る活動が組み込まれていたことが素晴らしい。

第５分科会に参加して

「社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実」

記録：石巻市立山下中学校長　**髙橋　義孝**

1　テーマ及び提案の趣旨

⑴　教育活動全体を通した組織的・計画的な進路指導の充実　（熊本県）

⑵　「竹田郷土学」を柱に据えた，教育活動全体を通じた基礎的・汎用的能力の育成　（大分県）

2　実践の概要・内容

⑴　熊本県芦北町立田浦中学校の実践

①　校務分掌の配置の工夫

②　学力充実

③　総合的な学習の時間の工夫

・１学年：職業調べと職場訪問

・２学年：職場体験学習と進路適性検査

・３学年：福祉体験学習の実践

⑵　大分県竹田市立久住中学校の実践

①　「竹田郷土学」の取組

郷土の特長や郷土で暮らす人々の思いを知り，生徒が自己の生き方や将来の在り方について考える教育課程の編成

②　「生徒憲章」の理念を具現化する取組

・学級目標管理のＰＤＣＡ

・学校全体で生活を考える「生徒集会」

③　「言語活動の充実」の取組

3　全日中からの指導助言

熊本県の田浦中学校の実践では，職員・生徒･保護者の進路に関する意識に向上が見られ，キャリア学習プログラムなどのすばらしい資料も示された発表であった。

大分県の久住中学校の実践では，生活上の問題解決に全校生徒が取り組んでいること，教職員のミドルリーダーを中心に組織的に取り組み教職員全体の意識改革が図られたことなどの素晴らしい成果が見られた発表であった。

第６分科会に参加して

「自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実」

記録：登米市立佐沼中学校長　**鎌田　鉄朗**

1　テーマ及び提案の趣旨

⑴　学校間での連携を密にした生徒指導の推進「小さな成功体験を通して未来を切り開く生徒の育成」　（徳島県）

⑵　全ての教育活動を常に目標と照らし，改善を図っていこうとする意識を高めるための取組「みんなが学校を創る主人公に」（高知県）

2　実践の概要

⑴　徳島県の実践（吉野川市内５校の共同研究）

市内５校の共同研究による「意識調査」及び「とことん続ける行動目標」の実践を通して,「自他の敬愛」「他者との協働」「自己実現」の３つの力を育成するための効果的な手立てを探った。行動目標は，結果や成果（例えばテストで80点以上等）ではなく，日々の具体的な行動を目標（例えば１日３回以上自分からあいさつをする等）にし，約３ヶ月間毎日達成できたかどうかを確認させた。この実践から上記の３つの力の相関性の深さと成功体験の効果が実証できた。

⑵　高知県の実践（神谷小中学校：児童生徒数45名）

全ての教育活動を常に目標と照らし，改善を図っていこうとする意識を高めるために以下の取組を行った。

①　児童生徒の情報の確実な共有

②　児童生徒の主体的，自主的な活動の保障

③　地域との連携（地域で学ぶ,地域を学ぶ,地域に学ぶ）

④　菊地学園（菊地省三氏による学校支援事業）としての取組

⑤　行事振り返りシートの活用

⑥　ユネスコスクールを目指した取組

⑦　関係機関との連携

3　全日中からの指導助言

校長会が主体となり，協同で方策を立て，実践していることは非常に意義が大きい。　（徳島県）

褒めることは，具体的な貢献状況等を伝えることでより効果的になる。　（高知県）

第37回 宮城県中学校長会研究協議会 本吉大会（報告）

記録：気仙沼市立大島中学校長　宮　崎　明　雄

1　はじめに

今回の第37回宮城県中学校長会研究協議会本吉大会は，当地方では，５回目の開催，震災直後に開催された平成23年度の南三陸大会後では，８年ぶりの開催となりました。

2　開会行事

鈴木一史大会会長からは，挨拶の中で，本年度の中盤にあたり，「春から蒔いてきた種が実るとき」という話がありました。

菅原茂気仙沼市長様からは，「中学校教育を通して，Society5.0の次世代を担う子供たちをしっかりと育ててほしい。」とのお言葉をいただきました。

3　記念講演

講師先生は，震災当時南三陸町立志津川中学校長をされていた菅原貞芳先生でした。震災直後からの避難所の運営や学校再開に向けての生々しいお話，学校経営に当たる校長として心得ておくべき具体的な気付きが得られる貴重なお話を数多くの記録写真をもとにして，熱く語っていただきました。

避難所の運営に当たっては，情報の正確さや教室への住民の割り当てを各地区のコミュニティーに編成し直したこと，衛生面の配慮として，校舎内は土足禁止にしたこと，トイレ事情等々次の災害時にすぐに役立つものばかりでした。

4　研究協議［詳細は，冊子及び資料へ］

始めに仙台地区を代表して，亘理町立逢隈中学校小野寺昭人校長が，管内の校長へのアンケートをもとにしての研究の成果を発表しました。

特に興味深かったのが，校長の資質・能力として重要と考えるものを14のアンケート項目から答えてもらった結果が，４つに集約され，校長として考えていることが一致しているというものでした。それが，テーマである次代の学校経営を担う人材育成につながっていくという話でした。

続いて北部地区から加美町立中新田中学校早坂正紀校長が，平成29年10月に県教委から配布された『学力向上に向けた５つの提言』～理

解・継続・自校化～のリーフレットをもとにして，７つの中学校で行われている学力向上への具体的な取組を紹介しました。

５つの提言のＣＵＢＥの活用やノート作りコンテスト（濃い味ノート），自主学習５人組の取組等々具体的でとても参考になるものばかりでした。校長が道徳の授業実践を行いロールモデル（模範）となる例がありました。

5　まとめ

本開催に向けて，本吉地区中学校長会では，小野寺正一大会実行委員長を中心として，本地区に所属する13名の会員が一致結束して，役割を分担してきました。震災後８年を経過し，復興の途上にある様々な様子の実際をご覧いただけたものと思いました。

研究題「次代の学校経営を担う人材の育成」（仙台地区）
～ 人事評価等各種施策の活用を通して ～

研究協議に参加して

記録：富谷市立成田中学校長　山　内　芳　明

1　はじめに

研究協議では，仙台地区校長会から「次代の学校経営を担う人材の育成～人事評価等各種施策の活用を通して～」と題して研究発表があり，質疑・応答が行われた。

2　研究発表

⑴　研究目標

人事評価等各種施策の活用を通して，次代の学校経営を担う人材の育成を進めるため，効果的な事例，手立て等をまとめ，管内中学校長に発信する。

⑵　研究の概要

【第１年次】

①仙台管内中学校長を対象とした調査の実施

・経験年数に応じて身に付けてほしい資質・能力とその育成の手立て
・管理職としての資質・能力及びその育成の手立て
・人事評価制度の効果的な活用方法

②調査結果と考察

・資質・能力の個人差は第Ⅰ期が最も大きいことが分かり，校長として早い時期に，個人差に応じた「身に付けさせたい資質・能力」を明確にすることが必要である。
・経験年数が長い教員には，校内から外へと視野を広げさせ，今日的な教育課題に応じるための研修が必要である。
・教員一人一人の資質・能力の理解が人事評価を通して促進され，さらに育成するためには，具体的な研修等について当該教員との意見交換が必要である。

【第２年次】

①仙台管内中学校長を対象とした調査の実施

・校長に必要な資質・能力及びそれを身に付けさせるために必要な指導
・教員の研修歴の把握方法
・人事評価と研修との関連

②調査結果と考察

・資質・能力として，最も多く挙げられたのは，「最終的な責任を負う覚悟」，「適切な学校ビジョンと経営計画の策定･共有」,「教職員の能力や適性の把握，指導・助言の３つであった。
・研修歴の把握には研修カードの活用も有効である。
・人事評価の面談等を通して，教員に経験年数に応じた研修を勧め，また研修成果を発表する機会を設定することで，人材育成が促進できる。

⑶　成果と課題

○必要な能力・資質について明らかにできた。
○東部教育事務所の研修カードを紹介した。
○校内研修事例を紹介できた。
○人事評価の面談の有効性が検証できた。
○教員の研修成果の評価事例を紹介できた。

・人材育成に当たっては，対象教員，研修内容，研修時期等について検討が必要である。
・人材育成を所属校で行う際の研修の在り方や近隣校との連携の検討が必要である。

3　質疑・応答

本発表後，質疑・応答の時間では，校長としての資質・能力として，「責任を負う覚悟」は改めて言うまでもなく当然のことであるという共通認識をもつことができた。また，研修カードについて，各地区（管内）によって活用しているかどうかも確認することができた。

4　おわりに

今年度の研究協議は，これまでの分科会形式から全体会形式となったが，発表を会員全員で共有できたことの意義は大きいと考える。今後数年間で第Ⅳ期の教員の退職者が多数出る中で，次代を担う管理職の育成の在り方について，考えを深めることができた。今後の学校経営に生かしていきたい。

研究題「確かな学力の育成を目指す学校経営」（北部地区）
～ 学力向上に向けた５つの提言』の実践の充実を通して ～

研究協議に参加して

記録：美里町立不動堂中学校長　　玉野井　ゆかり

1　はじめに

発表・協議（２）では，北部（大崎・栗原）地区中学校長会から「確かな学力の育成を目指す「学校経営－『学力向上に向けた５つの提言』の実践の充実を通して－」と題して発表，質疑・応答で研修を深めた。

2　研究発表

⑴　研究の概要

北部（大崎・栗原）地区では，「学力向上に向けた５つの提言」の実践の充実を図り，確かな学力を育成する学校経営の在り方を明らかにするため，下記の３つを手立として実践を行った。

①「５つの提言」の「理解」をさらに深め実践する。

②「５つの提言」をあらゆる場面で着実に「継続」する。

③「５つの提言」を自校の良さと課題を踏まえて「自校化」を図る。

⑵　研究の実践

手立てに基づく実践事例の紹介があった。

【手立て１に関する実践事例】

○「５つの提言」再確認のための校内研修

○「５つの提言ＣＵＢＥ」の活用

【手立て２に関する実践事例】

○ノート作りコンテスト

○メディアコントロール週間

【手立て３に関する実践事例】

○自分の考えをノートに書くことについて，全校統一で指導

○家庭学習の時間を確保するために次の６点を全校で実施

・５教科のドリル・音読・漢字練習 (新出漢字10字)・英語プリント１枚・計算ドリル・自主学習１ページ

○「家庭学習アンケート」のグループ交流

〈校長として意識した働きかけ〉

○生徒への声掛け，校内研修の講師，模擬授業の授業提供など，校長が率先して提言の実践に取り組んだ。

○職員会議や校長通信等により，５つの提言について職員の理解を深めた。

○家庭学習の時間の確保等は，保護者に対して説明し，理解を求めながら協力体制を作った。

3　成果と課題

・校長が教員の話に対して真摯に耳を傾けたり，認めたり，問いかけをしたりする。

・それぞれの年代や職層の教員に，一人一人の資質に合った学びの機会を与える。

・世代間・階層間コミュニケーションの活性化

・教員一人一人の個性に応じた指導を行う。

4　おわりに

参加者から家庭学習の内容や「家庭学習力アンケート」について質問があり，研修を深めることができた。今回この発表・協議に参加することで，「５つの提言」の充実のための３つの柱「理解」「継続」「自校化」の必要性を改めて実感することができた。今後も，確かな学力の育成のため，思考と試行を重ねていきたいと強く願う。